



「賞賛と承認」は、私たち

職員が子供と向き合うとき心がけている姿勢です。子どもたちが自尊感情を高め、自己の有用感を感じて、よりよい行動への意欲や態度を身に付けさせようという本校の目標の一つでもあります。このような考え方は、子どもたちの間でも成り立ちます。そこで、学級や学校でもお互いの良さを見付け、認め合う活動をどんどん取り入れていこうとしています。この6月からは、全校で「ハッピー・カード」の取組を始めます。子どもたち同士で見つけた「友だちの良い行い」や「友だちのがんばり」をカードに書いて投函します。投函されたものは、お昼の放送などで紹介することになっていきます。私たちが気付いていない子どもたちのよさが報告されるのをとても楽しみにしています。

予測不可能な時代の先に

二〇二〇年(令和2年)を迎えようとする年末のテレビでは、「コンビニが年末年始に休業するらしい...」といった話題が流れていました。中国からのニュースも入ったのはいいのですが、原因不明の肺炎が「新型コロナウイルス」としてWHOに報告されたのは12月31日。正月を迎えても、一般の人はだれも危機感を感じてはいませんでした。いったい何から感染するのかわからないうちに、日本の第一号の感染が1月16日に横浜で判明。豪華客船ダイアモンド・プリンセス(なんか懐かしい...)が横浜港を離れた1月20日には広東省で初めてヒトからヒトへの感染を確認。防ぐ手立てもわからないまま、1月中に8都道府県、2月には15県、宮崎では3月4日。全国に感染が広がるのに、3か月しか掛からなかったのです。

「新型」とか「コロナ」とかよく分からないけれど、「今のは、科学、医学の進歩をもってす業するらしい...」といった話れば、しばらくの間に封じ込められる。」と誰もが思っていたのではないのでしょうか。日本の感染者数3千3百万人余り、死者数7万4千人(東洋経済オンライン)。忘れかけていましたが多くの著名人もお亡くなりになりました。世界の数をここで上げておかないのは、あまりの規模に確信が不明だからです。世界中の頭脳が立ち向かって、これだけ甚大な被害をもたらした新型コロナウイルス。ここで改めて考えたいのは、3年前の正月には、だれもこんな事態を予測していなかったこと。今思えば、よくこそ乗り越えたものだ...。こんなことを思い起こしているとき、あるニュースを見て一抹の不安がよぎりました。

それは、「チャットGPT」開発のニュースです。先日、「オープンAI」の最高責任者がアメリカ連邦議会に呼ばれて、3時間も質問に答えました。その中で彼は、「(アメリカが中心となって)「オープンAI」を規制する世界的機関をつくるのが必要だと述べました。私には、その答えている姿が、いつか見た映画のシーンのように思えたのです。」

人間が開発した人工知能が自らの知能をどんどん高めてヒトを超え、人類を滅ぼそうとする...。昔ワクワクしながら見たそんな想定外の映画が、現実味を帯びてきたのではないかと感じたのです。「自ら開発した物(者)から攻撃されるまで放っておくほど人類は愚かではない...」と信じて大丈夫でしょうか。未来の人類のために想定外の悲しい結末だけは、「正義」の力で防ぎたいものです。

不審者情報多発

全国各地でこれまでになかったような事件が続いて、世の中がどうもざわついていきます。市内での不審者情報も続いています。下校中での遊び、寄り道、断わりなく友だちの家に行くことなどないように。お休みの時も子どもの行き先や行動について把握しておきましょう。

すでに、新聞等で報道されましたが、改めてご紹介します。

令和30年度に続いて2回目。小林市に7つの工場をもつ
(株)ミヤザキ 様から西諸県地区の小・中学校に寄付があり、
贈呈式に出席してきました。

社長の 山之上 氏は小林市出身で、埼玉の小さな工場から始めて、
半導体を製造する機械で使われる部品加工の技術で、
現在、年商30億円以上という国内トップクラスの企業に育て上げた方です。



前列で感謝状をもつ中央の方が 山之上 道廣 社長です。

「学校の要望を聞いて、子どもたちのために使ってほしい。」との社長の意向で、
各学校では割り当てられた予算範囲内で購入計画を立てました。

本校では、教室のプロジェクターに変えて、すべての教室で大型モニターを導入。
そのほか、子どもたちに直接使ってもらおうと、「一輪車」の購入などを計画しています。

子どもたちには、小林に全国トップレベル、そして世界で競争している素晴らしい企業
があることを伝え、感謝の心はもちろん、
こんな人になりたい、こんな会社で働きたいという夢ももってほしいと思います。

「みんなで考え みんなでつくる みんなの小林小学校！」